

令和3年度 境港市第三中学校区 学校運営協議会(第3回) 記録

- 日時 令和3年10月24日(日) 14:00~16:30
- 場所 ふれあい会館(外江小学校 隣)
- 進行 進行:高濱(第三中学校教頭:学校事務局) 記録:岡田(外江小学校教頭)
- 参加者 渡部雅之(第三中学校長) 植田伸一(渡小学校長) 松尾忠光(外江小学校長)
早川輝彦(渡公民館長:会長) 水落篤(渡地区社会福祉協議会理事)
松本紀和子(渡地区民生児童委員副会長) 山口めぐみ(渡小学校 PTA 環境衛生部長)
森野謙(渡小学校教頭) 三好伸作(境港市外江地区連合自治会長:副会長)
松浦友三(外江公民館長) 藤原誠(外江小学校 PTA 副会長)
渡辺正子(外江保育園長) 岡田友志郎(外江小学校教頭)
高濱禎彦(第三中学校教頭:学校事務局)
高梨典子(第三中学校区地域学校コーディネーター)
十河淳(渡公民館運営審議会委員長) 松本晶彦(外江公民館運営審議会委員)
- 欠席者 渡邊冬樹(境港青年会議所直前理事長) 藤井慶一(外江小学校 PTA 会長)
木下晴夫(第三中学校 PTA 会長)
- 傍聴者(3名) 柳樂力人(市教育委員会事務局教育総務課課長補佐)
松田寛彦(市教育委員会事務局コミュニティ・スクール推進員)
高橋昭宏(学校関係者:外江小学校教諭)

※敬称略

1 会長あいさつ

新型コロナウイルスの感染が終息することを望む。そうすれば活動も広がる。

「あいさつの響き合う学校・家庭・地域」が今年度のテーマであるが、地域の方がずっと立っていると威圧感を感じるという中学生の感想もあり、子ども目線でやり方を工夫していく必要があると感じる。

保護者世代だけでなく、祖父母の世代の地域の方を学校の活動に積極的に参加させて、地域を活性化させていければと思う(新型コロナウイルスの感染状況にもよるが)。

テーマを共有して、PDCA サイクル P(計画)、D(実行)まで進んでいるので、この場でしっかり話し合って評価や改善につなげていければと考える。今日の会が有意義な時間になることを望んでいる。

2 熟議(第2回学運協)の総括(地域学校コーディネーターより)

生徒の感想では、「大人の考えを知り、良い刺激になった。」「楽しかったし、勉強になった。」「大人の考えを聞いて、生徒だけでは出ないような考えに触れることができた。」「先生のエピソードも聞いて身近な存在に感じた。」等があった。

普段、生徒たちは大人と触れ合う機会が少ないと感じる。新型コロナウイルスの感染の影響もあるが、小学校の頃は公民館や学校支援ボランティアの方と関わる機会があるが、中学校になるとそういった機会が少なくなる。高校生になったらさらに機会は減る。そういった状況を鑑みて、公民館の職員と話し合い今年の夏休みに、子ども講座を開催した。中学生ボランティアの募集も検討したが、新型コロナウイルス感染の影響で今年度は行えなかった。今後は、中学生も大人に混じってできる講座を企画していきたい。

平日の公民館利用については、WIFI や冷房機器がそろっている部屋を自由に使ってもらえるように呼びか

けた。土曜日は、「ふれあい会館」で「しらお自学室」を 4 回開催した。勉強をしに来た生徒と囲碁教室に来られていた地域の方との交流も見られた。渡でも小中学生が気楽に立ち寄れるフリースペースを設けてくださっている。

地域の中で、「子どもと何かしたいんだ」という方を探して、それを CS が後押しできればと考える。保育園でも、中学生が帰りに園に寄って園児と遊んでくれる。子どもたちが居られるいろいろな場所が町にあったら良いと思う。

挨拶については、各学校でも取り組んでいるように、挨拶をしたらお互いに気持ち良いことを念頭に取り組んでいきたい。

ボランティアについては、今朝のケヤキの清掃作業にも約 10 名の生徒たち(外江小校区側)が参加している様子が見られた。

保小中の連携については、「いきいきキャンペーン」を 11 月に行う予定にしている。

情報発信については、通信を発行している。CS のメンバーには、LINE で写真を付けたり、付け加えたりして情報を共有している。渡小学校は、CS のマチコミ登録で CS の P メンバーもマチコミが見られるようになっている。学校でもホームページで紹介している。

3 第 1 回学運協の振り返り(学校事務局より)

・「めざす子どもの姿」(準備期間に話し合っただけ)の確認。

- ① 地域に誇りを感じる子ども
- ② 心のやさしさ・強さを持ち、何にでもチャレンジする子ども
- ③ コミュニケーションができ、人と人のつながりを大切にする子ども
- ④ 学ぶ意欲や確かな学力・体力を身につけた子ども(生きる力)

これを基にして小中の三中校区の連携ビジョンを作成している。そこから、各学校の学校運営のビジョンへとつながっている。

・「めざす子どもの姿」実現のための今年度の方針

- ① 地域・家庭・学校で子ども達の安心感を育むことをねらい、「子どもや大人」「大人同士」が「心のつながり」を感じることができる取り組み。『顔と顔が分かる 顔と名前がわかる』ことを広げていくことを目指す。
- ② 「あいさつの響き合う学校・家庭・地域」のテーマのもとに各校が取り組みを行っている。
- ③ 朝のあいさつ運動の確認

・第三中:毎月 10 日 ・渡小:第 1 月曜日 ・外江小:毎週月曜日

4 各立場(学校、地域、家庭 3 グループ)での熟議についての説明(学校事務局より)

熟議:「これまでの取り組み(何ができたか)」

「これからの取組(何ができるか)ケヤキ並木の清掃活動とそれ以外について」

○グループの視点

学校:「子どもたちの学びを豊かにするために」

家庭:「子どもたちの学校内外での温かいかわりを大切にするために」

地域:「地域住民が地域総がかりで子ども達を育み意欲的に地域づくりを行うために」

(約 40 分間 各グループでの話し合い)

<各グループからの発表>

○地域グループ(発表:委員より)

「第1回目のケヤキ並木の清掃の様子の説明」

- ・小学生、中学生が割と多く参加していた。
- ・車道側にも広がっているので危険な場面もあった。
- ・おじいさん、おばあさんが子どもたちに注意したり教えたりしている場面もあった。
- ・「現在、清掃をしています」という安全のための看板があった方がよい。

「市民運動会、公民館まつりについて」

- ・中学生が参加できる種目、お手伝いできる場面をつくってもらいたい。

「挨拶について」

- ・中学校の新年度の役員選出の立候補の演説では、「あいさつ」をがんばりたいという内容を聴くことができたが、実際には難しいようだ。
- ・小学校では、日によって元気がよかったり、反応が鈍かったりと違う。
- ・「あいさつが響き合う」に「自然に挨拶ができるように」なってほしい。

(質疑・意見)

- ・お揃いのジャンバーなどがあれば、安全にケヤキ清掃の作業ができるのでは。(委員より)
- ・外江では、自治会長が「清掃中」と表示しているビブスを着用して行っている。その他、市役所から配布されている赤い棒も使用しながら安全に作業を進めている。(委員より)
- ・今朝の清掃作業では、自治会長が集まった方に丁寧にコミュニティスクールとの関わりを説明していただいた。すごくわかりやすい、よい話であった。高梨コーディネーターが、中学生にガムテープに名前を書いて名札を付けていた(顔と名前を覚えるため)。大人もするとさらによいと感じた。(コミュニティスクール推進員より)
- ・あいさつについては、声が出せない子もいる。多様性を受け入れる世の中において、「元気な声で」という一つの物差しでの挨拶の評価はいかなものか。気持ちの伝え方は多様でなければならない。(委員より)



○学校グループ(発表:小学校教頭より)

「各校でできていること」

- ・渡小では、芋づくりや綿づくりなど総合的な学習の時間のGTに地域の方に来ていただいています。その他、環境整備や見守り活動などに地域の方、保護者の方(おやじの会の方も含め)に手伝っていただくお陰で、子どもに向かう時間を確保できている。
- ・外江小学校でも総合的な学習で、地域の団体や事業所の方などGTを招聘して、子どもの学びを深めている。また、地域の行事である「丁左」祭りの太鼓のたたき方を教えてもらうなど、子どもたちが地域に興味関心を向けるために、地域の人材活用を行っている。その他にも公民館長さんに「中海」についてお話をいただいたり、認知症サポーター養成講座など幅広く外部の方に来ていただいたりして学習を深めている。

- ・三中では、少しずつ地域の方に来ていただく機会が増えてきている。市民運動会のボランティアや「わくわく境港(職場体験)」が新型コロナウイルスの感染状況により中止になって、大変残念に思う。
- ・その他、クラブ活動にも GT に来ていただいている。
- ・外江保育園では、保育参観日を実施している。保護者の方数名ずつ来ていただいて、保育士の体験をしていただく。また、小中学生が帰りに寄ってくれて、園児と遊んだり、園の仕事を手伝ったりしてくれている。
- ・保育園では、園児が自分たちで運動会のプログラムを考えて行っている。

「今後に向けて」

- ・(今朝のケヤキ並木清掃の様子) 知ってもらうことが大切。
- ・小学生の低学年での地域の方との関わりが、高学年や中学生になってもよい関わりになってくると考える。
- ・学校も地域の GT もねらいを共有して取り組むことが大切。

(質疑・意見)

- ・GT として外江小学校へ「中海」について話をさせていただいた。三中校区は、境港市の中でも一番中海にかかわりのある所なので、もっと中海に親しんでほしいという思いで話をさせていただいた。中海の一斉清掃が毎年行われているが、境港からの参加者はほとんどいない。もう少し、自分たちの身近にある中海を大切に思ってもらいたいし、中学校はボランティアに参加してほしいと思う。(委員より)
- ・6 月くらいに中海の清掃についてはあるが、宣伝があまりうまくいっていないように感じる。知らない人が多い。情報がうまく伝わればと思う。(委員より)

○家庭グループ(発表:委員より)

「家庭での子どもとの関わり」

- ・あいさつを通して他者とのコミュニケーション力や自己肯定感を高めてほしいが、まずは家庭で親が子どもたちの話を聞くことから始めていくべきだと考える。親が、心の余裕を持つことが大切。
- ・「十秒の愛」という取り組みを以前は行っていた。(「十秒の愛」取り組みの内容を説明) この活動を、今一度リニューアルして三中校区で方向性を確認しながら取り組んでいきたい。
- ・各校の次回の PTA 執行部会で、この「十秒の愛」の取り組みについて話題に挙げていくことを確認。
- ・あいさつ運動に参加しているが、いろいろな反応を示す子がいる。
- ・まずは、それぞれの子どもが家庭で認められている自覚を持つことが大切。
- ・子どもを混じえて、よい関係を築くための話し合いに参加させてみてもよいのでは。
- ・(ケヤキ並木清掃の様子から) ガムテープの名札は良い取り組みである。親子で参加している姿も見られた。情報発信の成果であると考えられる。

(質疑・意見)

- ・(あいさつのことでのエピソード紹介) 自分の娘は、何度も「挨拶をしなさい」と言っても、上手くできなかった。しかし、近くの畑作業をしているおばさんに褒めてもらったことをきっかけに、自分から積極的にできるようになった。他人に自分を認めてもらったという思いはすごく大切だと感じる。(学校関係者より)

5 第3回学校運営協議会兼学校関係者評価委員会に係る質問項目について説明(学校事務局)

・学校関係者評価に係る「目的」等についての説明

(各校で行っていた学校関係者評価について、学校運営協議会の中で行う評価として取り組むこと等)

・アンケート項目についての説明

(補足)冒頭の「めざす子どもの姿」にどう近づいているのかを確認するためのアンケートである。評価すること自体が目的ではない。(コミュニティスクール推進員より)

6 その他

① 第1回第三中学校区学校運営協議会で了解された内規についての提案(学校事務局より)

② その他(委員からの意見・要望等)

◆「心とからだいきいきキャンペーン」についての説明(学校事務局より)

・保育園との連携との説明等

◆意見「メディアのことについて」

・学習とメディアに関するしくみや安心して学習できる場を地域と連携してつくっていくことも今後の話し合いの中に入れていくべきだと考える。(委員より)

・話し合っていく大切な議題なので、話し合いの場を設定できればと思う。(学校事務局より)

◆地域推進学校フォーラムについて説明。(コミュニティスクール推進員より)

7 副会長挨拶

・今回も大変貴重な話し合いになったと感じる。特に「十秒の愛」については初めて知ったが、すばらしい取り組みだと思う。やはり、日頃より親の責任を強く感じる場面がある。以前、教育長との話の中で、学運協の目的の一つは親を変えていくということを聞き納得できた。家庭の問題は、なかなか見えにくく、手を出しにくい難しい問題であるが、色々と工夫しながら訴えていかなければならない。

・あいさつについては、以前に比べて大きな声で返してくれるようになった。学校の取り組みの成果でもあると思う。これが、もっともっと広がっていけばと思う。

